

飛翔

運動の前進を誓い 一年の歩み

— 2010~2011 —

県労連

様々な分野で前進

昨年は年金者組合の飛躍や、医労連ちひろコスモス労組の結成、高知一般の拡大など、加盟組織の健闘によって、高知県労連は九月十三日の定期大会を増勢で迎えました。職場と地域を軸足に据えた運動が、着実に実を結びつつあります。

様々な運動の中、多くの分野で前進が見られました。新たな年を迎え、さらに運動の発展を願いながら、昨年を振り返ります。

一月・旗開き



二月・年金二揆



六月・最賃ハンスト



九月・タクシーベイ問題



十一月・相談ホットライン



十二月・あつたか村



八月・青年部BBQ企画



十月・社保協キャラバン



十一月・農業問題学習会



七月・増税反対パレード



十月・国鉄和解報告集会



十一月・国民大運動県交渉



三月・労働講座



四月・普天間基地撤去・沖縄に新基地を許さない県集会



五月・メーデー



11011年春闘は何をめざすか・田口書記長に聞く

Q. まず最初に二〇一一年春闘の特徴を聞かせてください。

A. 昨年の春闘で民主党政権を下半身は「生活者主義」、上半身は「新自由主義」のケンタウロスの存在と言いました。国民の願いは、構造改革路線からの決別でした。しかし現実には民主党内で構造改革路線が大勢となり、社会的に格差と貧困が更に進行しました。また、支持率低下の中で党内亀裂が深まっています。「政治の貧困が、国民生活における貧困を助長している」と言えます。

Q. そのような中、どのような運動をしていきますか？

A. 一言でいえば「構造改革路線との対決」です。二つの柱があります。

一つは「反貧困」の取り組みです。昨年の秋の県社保協の「全県キャラバン」では、「各自治体からさまざまな貧困をなくそう」と反貧困の共同を呼びかけました。あつたか村年末相談会の取り組みもその一環で、昨年は土佐清水、須崎、高知、安芸で開催できました。高知市やハローワークの窓口にチラシを置いてもらい、県のホームページでも紹介してもらいました。また、報道機関でも取り上げられ、相談活動や相談窓口の存在を広く知らせることが出来ました。「反貧困」の共同を更に進めます。

二つ目は、地域主権改革と対決し、地域を守り再生する取り組みです。

昨年は農民連と共催で農業問題の学習会を成功させました。国の出先機関の廃止統合、TPP（環太平洋連携協定）、保育の新システム、教育、医療、介護などなど問題が山積しています。それらを個々バラバラではなく、地域を守るという視点で統一し、大きな運動にしていきたいです。

Q. 具体的にはどのような運動を展開するのですか？

A. 二月、三月段階で地域を含んだ大宣伝行動を展開します。公務員パッシングと我慢の哲学（賃金も雇用も我慢せよ）という二つの偏見を一掃することをめざします。

また、二月段階で地域を守る共同の県民集会を開催します。TPP問題などで従来の枠を超えた呼びかけをしたいと考えています。

Q. 重点の課題を聞かせてください。

A. 雇用と賃金の底支えです。賃金闘争では年収のダウンを防ぎ中期的な視点も持った提案型の運動をめざします。最賃闘争を重視し、生計費調査の実施を検討します。

雇用問題では、高校生、大学生の就職問題、長期の失業問題などより具体的な雇用政策をまとめます。

労賃や労働条件にしろ寄せをさせない入札制度の改善や公契約条制定の運動をめざします。

Q. 最後に組織拡大について聞かせてください？

A. 昨年の大会は増勢で迎えることが出来ました。県労連への労働相談は年間300件です。

その二割近くが組合に入ってくれます。「一人から組織へ」を合言葉に未組織職場での組織化をめざします。

また、職場内では、組合員が減るのは仕方がないという「宿命」論を払拭し、「こんな仕事がない」「こんな職場にしたい」「こんな地域を作ろう」という理念提示型の組合員拡大を提起します。三〜五月の拡大月間で飛躍を作り出します。